

協力医療機関における熱中症入院患者数(7月2日 報告分)

●ここに掲載している情報(即時情報という)は、日本救急医学会・熱中症に関する委員会(委員長:清水 敬樹(東京都立多摩総合医療センター 救命救急センター))による「熱中症患者即日登録調査2019」で収集した情報に基づいています。

●熱中症の発生が危惧される令和元年7月1日～9月30日の間、当該日(0時～24時)に報告された熱中症による入院患者数等*の即時情報を、報告翌日に公表します。(なお、土日曜日は月曜に併せて公表)

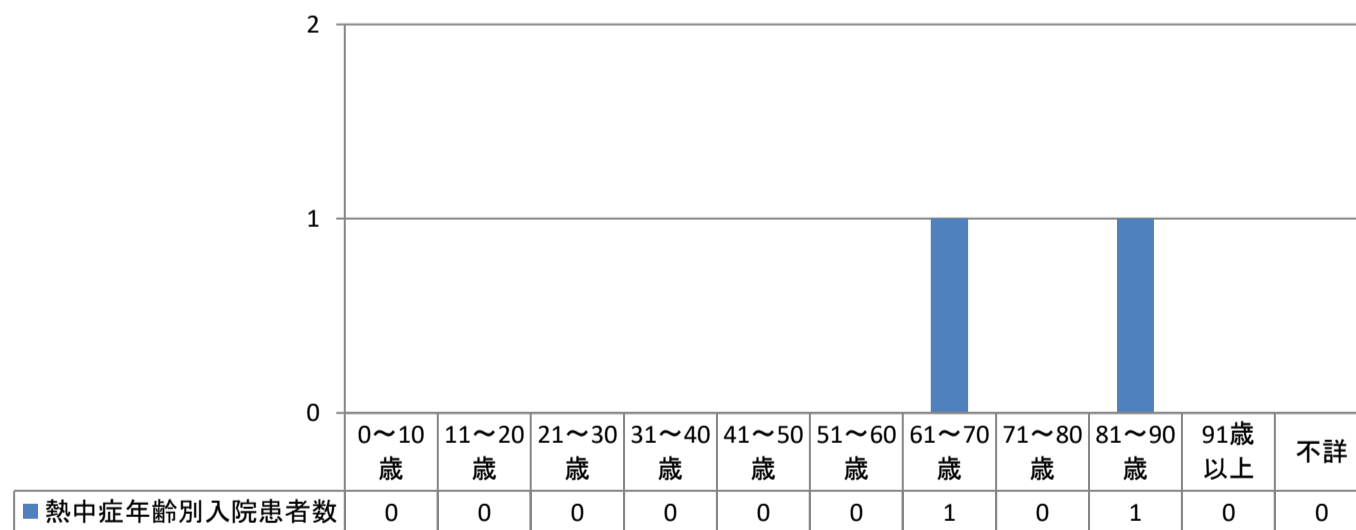
●即時情報は、協力の得られた医療機関からの任意の報告に基づくため、日々の患者数の変化の程度、患者の年齢層の変化等の傾向の把握に使用し、他の関連情報と総合して対策を講じることが重要です。

* 外来診療により帰宅した患者を除いた来院熱中症患者数

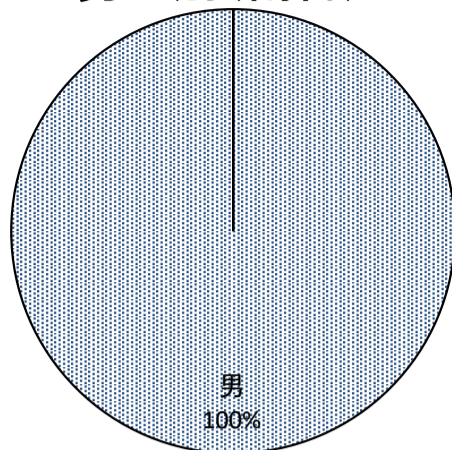
報告された熱中症入院患者数



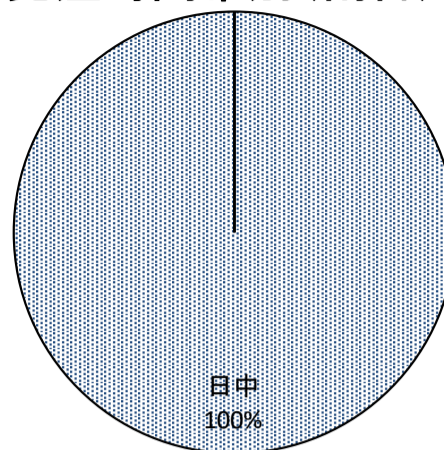
熱中症年齢別入院患者数(7月2日)



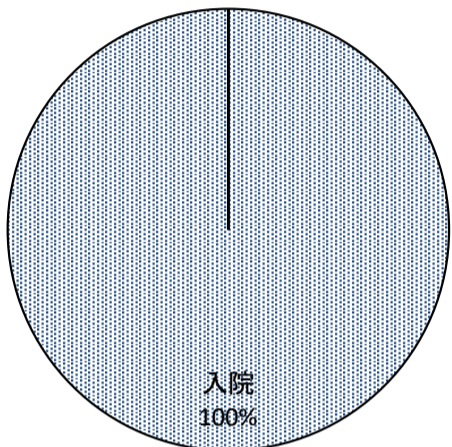
男女別(割合)



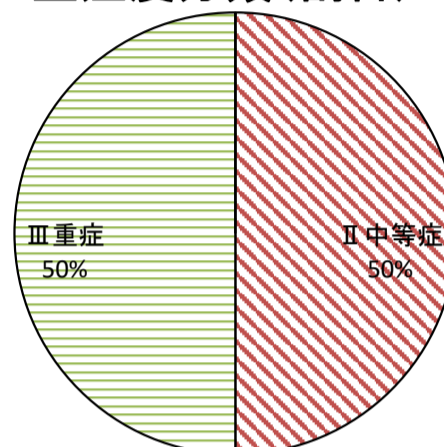
発症時間帯別(割合)



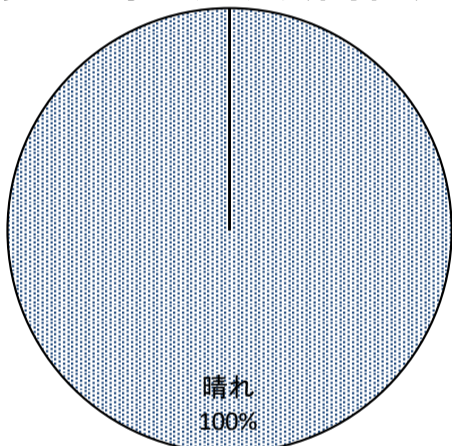
受診後(割合)



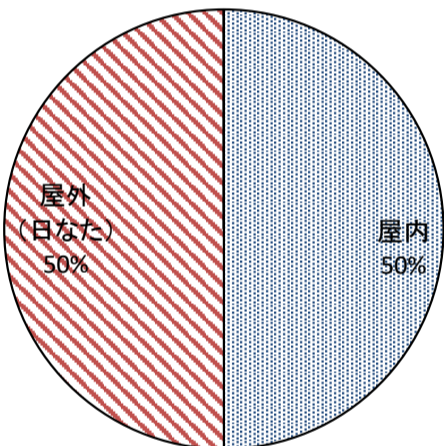
重症度分類(割合)



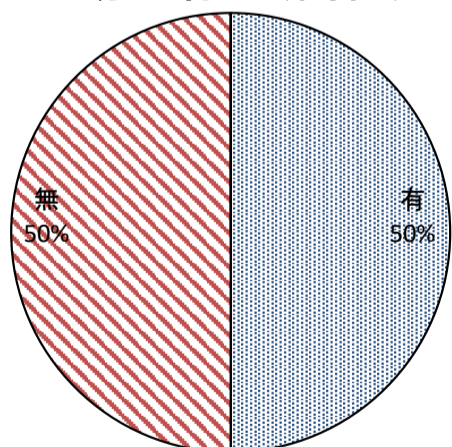
発生時の天気(割合)



発生場所(割合)



運動の有無(割合)



* ここでいう「発症」とは、自覚症状や他覚症状が認識されたときのことを指し、「発生」とは、発症に最も影響を及ぼしたと考えられる一連の過程のことを指します。

* 重症度について：Ⅰ度は現場にて対応可能な病態、Ⅱ度は速やかに医療機関への受診が必要な病態、Ⅲ度は採血、医療者による判断により入院（場合により集中治療）が必要な病態を表しています。（日本救急医学会「熱中症に関する委員会」の推奨する分類より）

* 熱中症入院患者数の割合の算出に当たっては、端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。